

メーデー宣言（案）

私たちは、100年の節目となる「第91回メーデー大分県中央大会」を前例のない形で開催した。

メーデーは、1886年に米国の労働者が1日8時間労働を求めてゼネストに立ち上がったことを起源としている。日本では、1920年5月2日に第1回が開催され、第二次世界大戦中は禁止に追い込まれたが、戦後に力強く復活した。以降、働く者の団結と連帯を通じて、労働者の地位や労働条件の向上、人権・労働基本権の確立などに深く貢献してきた。そして今年、メーデーは100年の節目を迎える。メーデーの原点に立ち、果たしてきた役割を振り返り、すべての仲間が団結・連帯することの重要性を再確認したい。

世界は今、新型コロナウイルスの恐怖に脅かされている。それは経済や社会、そして雇用に深刻な影響を及ぼしている。しかし、こうした厳しい状況の中にあっても、命と健康を守り、経済を動かし、社会を維持するために懸命に働き続けている方々の存在と頑張りについて、改めて全体で認識し、心からの感謝の気持ちを共有したい。この間連合は、新型コロナウイルスの影響で困難な状況に直面している方々に向き合い、その声を受け止めてきた。そして、中央・地方で、政府や行政、政党に対し、感染症拡大抑止を最優先に取り組むことや生活確保・事業継続のための緊急措置など、大胆かつ速やかな緊急対策を求めてきた。

大分県においても新型コロナウイルスが、「働く者」や「生活者」に多大な影響を及ぼしている。とりわけ、集団的労使関係の枠組みが構築されていない「未組織労働者」への影響は甚大であり、明日への不安を抱えていることは論を俟たない。

メーデーの精神である、働く者や生活者の立場から、すべての仲間の力を結集して、この極めて厳しく未曾有の難局を乗り越えるために、労働組合としての社会的役割と責任を果たしていかなければならない。

今こそ私たちは、国際連帯を深め、この経験を通じて社会の変革を促し、私たちが掲げる誰一人取り残されることのない公正な社会の実現、平和・人権・環境が守られ、誰もが笑顔のあふれる未来を構築できるよう全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

2020年4月29日
第91回メーデー大分県中央大会